

阿蘇山の火山活動解説資料

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

< 噴火警戒レベル2（火口周辺規制）が継続 >

本日（26日）07時57分に中岳第一火口で小規模な噴火が発生し、灰白色の噴煙が最高で火口縁上1,600mまで上がりました。噴火は13時現在まで継続しています。この噴火に伴う大きな噴石や火砕流、空振は観測されていません。

【防災上の警戒事項等】

中岳第一火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1、2、図4 - ）

本日（26日）07時57分に中岳第一火口で小規模な噴火が発生し、灰白色の噴煙が最高で火口縁上1,600mまで上がりました。09時以降、噴煙の高さは400m程度で推移し、噴火は13時現在まで継続しています。この噴火に伴う大きな噴石や火砕流、空振は観測されていません。中岳第一火口で噴火が発生したのは、2019年5月31日以来です。

第二火口南縁カメラの映像では、中岳第一火口より高温の噴煙が上がっているのを確認しました。また、阿蘇山火山博物館提供の火口カメラの映像では、噴火発生頃より、中岳第一火口底の一部で火炎¹⁾を観測しており、熱活動の高まった状態が続いています。

・地震や微動の発生状況（図3、図4 - ）

火山性微動の振幅は、昨日（25日）22時頃から一時的に大きくなりましたが、噴火が発生して以降は小さな状態で経過しています。

火山性地震及び孤立型微動は多い状態で経過しています。

・火山ガスの状況（図4 - ）

昨日（25日）実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり2,400トン（前回7月23日、2,500トン）と、多い状態が続いています。

1) 高温の噴出物が炎のように見える現象です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、九州大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



図1 阿蘇山 噴火の状況（上：草千里監視カメラ、下：南阿蘇村監視カメラ）

本日（26日）07時57分に中岳第一火口で小規模な噴火が発生し、灰白色の噴煙が最高で火口縁上1,600mまで上がりました。09時以降、噴煙の高さは400m程度で推移し、噴火は13時現在まで継続しています。この噴火に伴う大きな噴石や火砕流、空振は観測されていません。中岳第一火口で噴火が発生したのは、2019年5月31日以来です。

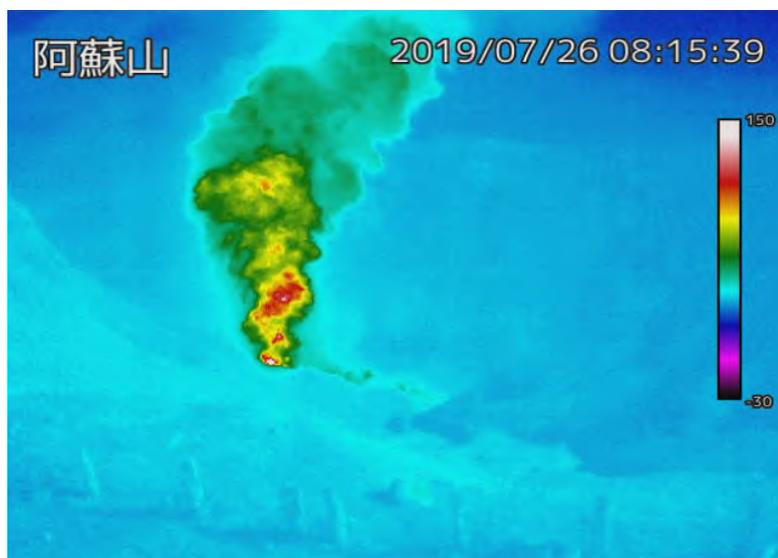


図2 阿蘇山 中岳第一火口の状況
(上：第二火口南縁カメラ可視画像、中：第二火口南縁カメラ熱赤外画像)
(下：阿蘇火山博物館提供による火口カメラA)

- ・第二火口南縁カメラの映像では、中岳第一火口より高温の噴煙が上がっているのを確認しました。
- ・阿蘇山火山博物館提供の火口カメラの映像では、噴火発生頃より、中岳第一火口底の一部で火炎を観測しており、熱活動の高まった状態が続いています。

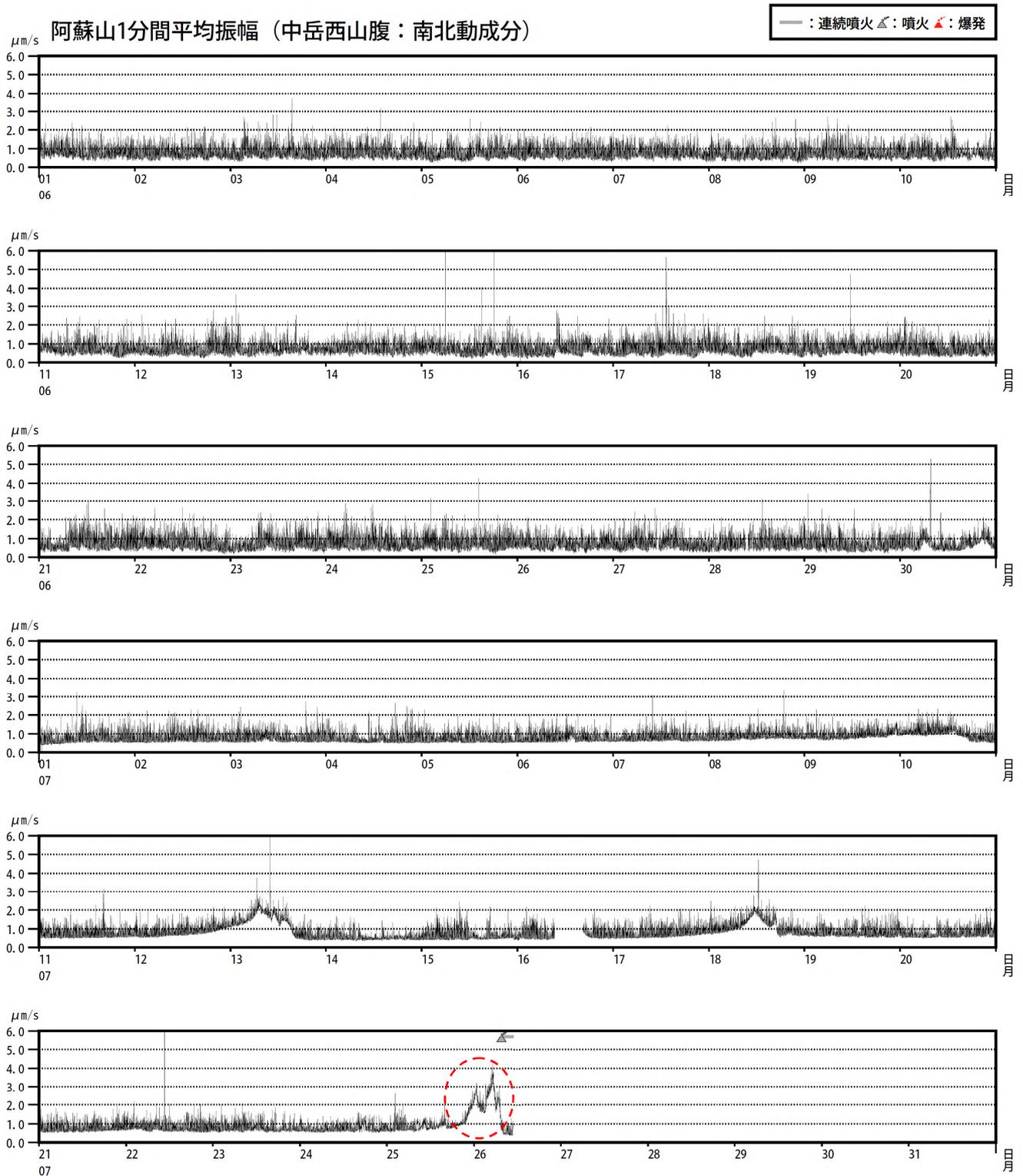


図3 阿蘇山 火山性微動の振幅の時間変化
(中岳西山腹観測点南北動成分の1分間平均振幅、6月1日～7月26日11時)

火山性微動の振幅は、昨日(25日)22時頃から一時的に大きくなりましたが(赤破線)、噴火が発生して以降は小さな状態で経過しています。

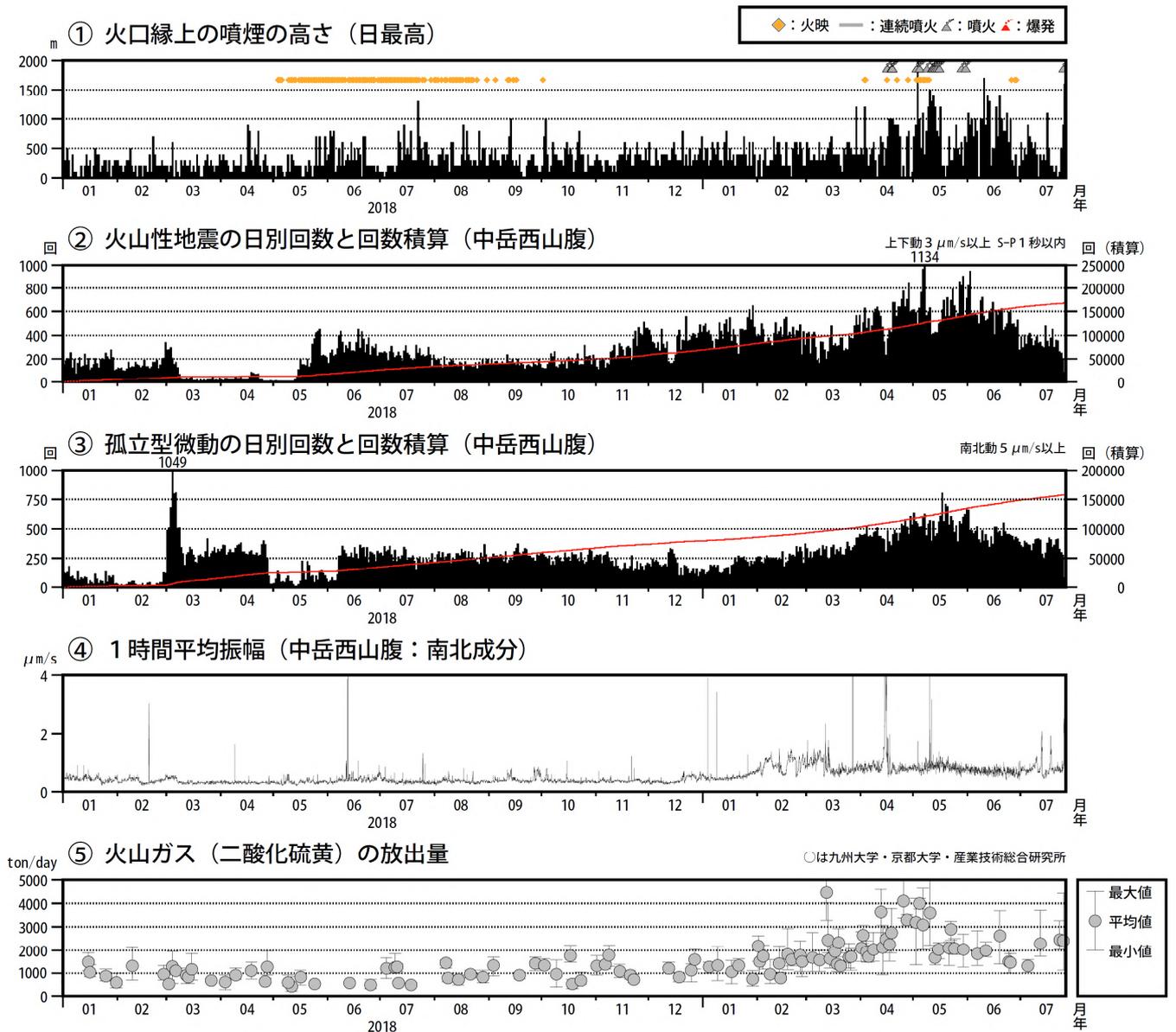


図4 阿蘇山 火山活動経過図 (2018年1月～2019年7月26日11時)

- ・本日(26日)07時57分に中岳第一火口で小規模な噴火が発生し、灰白色の噴煙が最高で火口縁上1,600mまで上がりました。09時以降、噴煙の高さは400m程度で推移し、噴火は13時現在まで継続しています。この噴火に伴う大きな噴石や火砕流、空振は観測されていません。中岳第一火口で噴火が発生したのは、2019年5月31日以来です。
- ・火山性微動の振幅は、昨日(25日)22時頃から一時的に大きくなりましたが、噴火が発生して以降は小さな状態で経過しています。
- ・火山性地震及び孤立型微動は多い状態で経過しています。
- ・昨日(25日)実施した現地調査では、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、1日あたり2,400トン(前回7月23日、2,500トン)と、多い状態が続いています。

と の赤線は回数の積算を示しています。

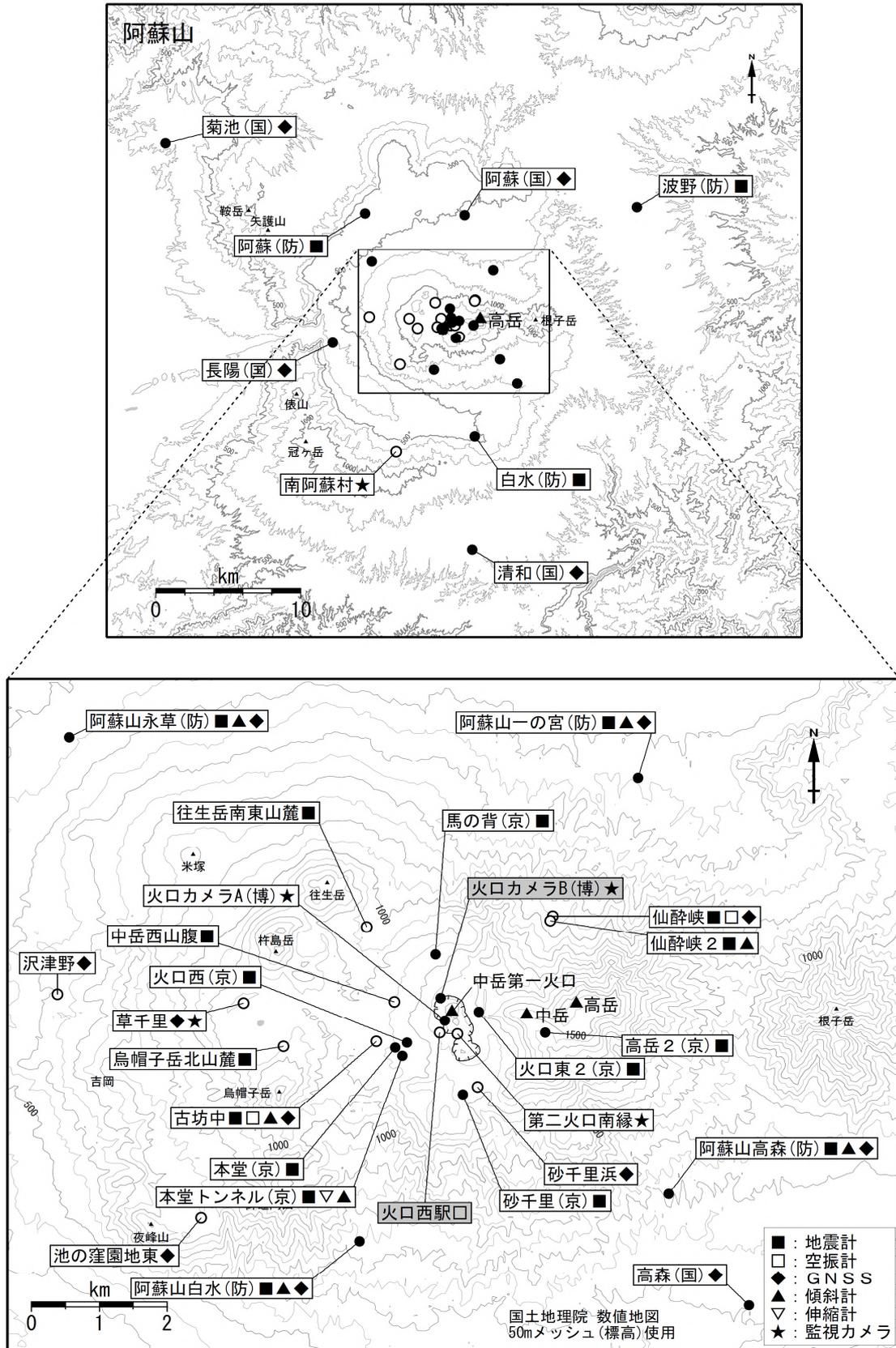


図5 阿蘇山 観測点配置図

小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(京)：京都大学、(防)：防災科学技術研究所、(博)：阿蘇火山博物館、(国)：国土地理院
図中の灰色の観測点名は、噴火により障害となった観測点を示しています。